

2009年2月23日

「雇用者以外の就業者の仕事と生活の調和」に関する有識者ヒアリング  
於 内閣府

女性農業者の現状と  
農業者のワーク・ライフ・バランスの現状と課題

昭和女子大学大学院教授  
天野 寛子

# 天野主著

## ● <女性農業者関連>

- 単著『戦後日本の女性農業者の地位ー男女平等の生活文化の創造へー』（ドメス出版）2001
- 共著『男女共同参画時代の女性農業者と家族』（ドメス出版）2008

## ● <生活時間関連>（共同研究）

- 『生活時間』（光生館）1984
- 『生活時間と生活様式』（光生館）1989
- 『生活時間と生活文化』（光生館）1994
- 『生活時間と生活意識』（光生館）1999
- 『生活時間と生活福祉』（光生館）2005

# 農業基本データ

(08.2.1 農業構造動態調査)

- 農業経営体数： 1804,000
- うち販売農家数：1750,000
- . . . . .

## 販売農家数内訳

主業農家 365,000戸 (内専業 176,000)

準主業農家397,000戸

副業的農家988,000戸

- ★家族経営協定締結数：37,721戸 率＝主業農家数で見ると10% (農林水産省)
- ★女性認定農業者数：6,774人 (内共同申請1448) (農林水産省2007)
- ★農業者年金加入者数：男性77,122人 (92%) 女性6,850 (8%) ((独)農業者年金基金2006)

販売農家：経営面積30a以上、農産物販売金額50万円以上の農家

主業農家：収入の半分以上が農業所得で、65歳未満・年間60日以上の農業従事者のいる農家。副業的農家は65歳未満・年間60日以上の農業従事者がいない農家。従来の専業・兼業の区別とは一致しない

# 用語説明

- ★**家族経営協定**とは、家族経営農家において「個の確立、近代的経営の確立、人間の尊厳に値する農家生活の実現を目指して就業条件（農業労働時間・家事労働時間・介護労働時間・休日・有給休暇、生理休暇等）労働報酬、経営参画の方法、役割分担の仕方、経営継承、生活のルール、老後の生活設計を含む生活全般について、民主的に話し合いを行い、家族員合意のもとに文書の形で協定を締結すること」
- ★**認定農業者**とは、意欲ある農業者が自らの経営を計画的に改善するために作成した「農業経営改善計画認定申請書」を市に申請し、市が基本構想に照らしてそれを認められた農業者のこと。  
農業経営改善計画を認定された農業者。

# 農業者におけるWLB

- 生活の質の問題としてとらえればすべての人の問題  
(子育て期・中年夫婦・高齢期(夫婦・一人)すべてのステージの問題)
- 一定の労働とそれによって希望をもって持続的に生活ができ、  
生活設計が立てられる
- 人間らしい複雑な、多様な要求と行動ができ、欲求が満たされる
- それを前提として労働と家庭生活時間のバランス(または  
個人生活の充実)の両立
- .....
- ★単に「産休がとれるかどうか」とか「育児休暇がとれるかどうか」  
の問題ではない(そこに特化すると90%の農業者には関係がなくなってしまう⇒ワークライフバランス認知度

## 農業の担い手年齢構成 p.2

①高齡化

②基幹労働力が男女共50代ー60代が中心＝★20代30代の少なさ

⇒少ないが故の子育て上の問題があり、都市自営業者と違う問題をもっている。

それに対処する必要性大

③「ワーク・ライフ・バランス」用語認知度の低さ

- (ただし、ここでは自営業であって農林漁業ではない)

# 農業者の生活時間 p.3

- ★「女性就業者及び配偶者の1日の生活時間配分」（繁忙期と暇な時期の差大、個人の1日の生活行動、順）平均
- 女性農業者の繁忙期：農業（黒＝10時間、家事3時間弱、自由時間1時間半、睡眠7時間
- ★「農林業と非農林業の1日の生活時間比較」社会生活基本調査2006
  - ①農林漁業のほうがゆっくりごはんを食べている
  - ②非農林漁業の方が男女とも労働時間が長い
  - ③農林漁業のほうが男女ともTV/ラジオ、新聞雑誌の時間が長い
  - ④家事時間の男女差は農林漁業・非農林漁業ともに男女差が歴然
- ★意欲的な農家（認定農業者）
  - Kさん（ハウス栽培 みず菜）労働時間：13時間
  - 白石さん夫妻 普通の生活時間（週）

# 女性農業者と労働と子育て期（1）

p.4 上

★農家の女性のふだんの状態

①主に農業 ②主に育児・家事③主に農外就労に3分される「・・・したい」希望は通っている

★就業率はM字にならない

★育児・家事従業者が農業に従事する時期は末子就学するとき

★主に農業に従事する理由

自分の都合 子どもに手がかからない 農業技術 労働力期待 圧力（雰囲気）



# 女性農業者と労働と子育て期（2）

## p.4 下

★子育て期における農業に対する考え方＝「子育てに専念したい」51%、  
親世代は50～60歳代前半で働き盛り

★農業と子育ての両立方法 ①同居家族で役割分担 ②仕事をしながら

★両立で困ったこと ①自分の時間 ②忙しいとき世話ができない ③子どもと一緒に過ごす時間がない。

◎とられている支援（農林水産省）：相談員制度、Eラーニング

### <要望>

★保育園の入園基準の緩和、保育料を安く。「入れてもらえない」⇒「子育てに専念したい」につながっている

★保育時間延長をしてほしい

★学年に関らず学童保育に入れてほしい。夏休み・土曜・日曜の受け入れをしてほしい

# 家事・育児は ほとんど妻が担っている (家事+介護+育児+買い物)

## ★農林漁業・非農林漁業平日の生活時間 (再掲)

農林漁業男性 32分 女性3時間25分 非農林業男性 20分 女性 2時間48分

## ★女性の「夫や家族による家事・育児の分担」希望

- 39歳以下の女性農業者の6割が「夫や家族による家事・育児の分担」を希望

## ★経営者における配偶者との家事育児に関する役割分担

- 家事・育児→ほとんど女性が行う

# 「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」 の優先度（自営業主）

- ★「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の優先度：  
＜農林漁業＞の場合は「仕事優先」の希望と現実差が少ないのに、＜商工サービス・自由業＞ではその差が大きい  
＜農林漁業＞と＜商工サービス・自由業＞とでは違いがある（統計では遡れるようにしないと対策が立てられない）
- ★右図では、訳が分からなくなっている

# 家庭生活・個人生活の時間はとれているか

## p.7・8

- 「家庭生活」「地域・個人の生活」の希望優先度  
都市型と農村型（同じ自営業でも課題が異なり、農業者の課題が見えなくなっている）\*自営業主=男性、家族従業者女性とほぼ読み替えられる
- 家庭生活のための時間はとれているか⇒とれている男性7割女性8割
- 地域社会活動の時間はとれているか⇒男性5割女性4割
- 学習・研究、趣味・娯楽、スポーツの時間はとれているか  
⇒ とれている男性5割女性6割弱
- 休養のための時間はとれているか⇒男性6.5割、女性7割弱
- 生活満足度：農林漁業<満足>男性52% 女性71%
- 所得・収入面：農林漁業<不満>男性67%、女性51%
- **WLBができている女性農業者と家族の生活時間事例（親世代と後継者の生活時間：週）**
- **畜産（牛）経営主夫妻・後継者夫妻、経営主妻：WLB能力の高い女性**

# 女性農業者による活動

- 生活文化の伝承：伝統食品、伝統料理、エコ・ミュージアム、生活技術の体験・伝承
- 都市農村交流：農産物加工・直売、農家レストラン、農業体験受け入れ、集落景観づくり、観光農園、市民農園
- 自然探検：植物、地形、水、動物、食べ物、民間薬、遊び、キャンプ
- 民家：かやぶき民家観光・みやげ
- グリーン・ツーリズム：農家民宿（ファーム・イン）
- 山村留学受け入れその他福祉関連の活動  
福祉との連携リハビリテーション等を視野に入れた町づくり

# 起 業・支 援

起業数9,444件(2007農林水産省)

- 300万円以下8割、一方で1人100万円以上も育ててきている
- 高齢者対策にはなっている
- 社会的には認められる活動になっている
- 地位向上になっている
- 経営体が弱体だと女性起業もやらない
- **まだ起業活動が労働時間にはいっていない場合が多い**

## ★他と異なる支援ニーズがある (女性起業支援の難しさ)

- 自営起業一般＝低金利融資制度や税制優遇措置
- 女性農業者はそれを使わなかった
- **女性農業者のほしい支援は全く別**

# 農家におけるWLB課題

- ①超高齢社会
- ②収入の低さ＝長時間労働やれば儲かるという問題でもないし、体力の問題もあり無理⇒（所得不満7割）
- ③意欲的農業者のところで二極化 長時間労働型とバランス型へ
- ④性別役割分業観の根強さ（農業労働時間＋家事労働時間の長さ）
- ⑤保育園への入りにくさ⇒仕事したいのにできない
- ⑥学童保育の学年制限を外す、土曜・日曜・夏休み等長期休みの保育の実施
- ⑦人口の希薄さによる情報の入りにくさ、片寄り

## ★自然という人間の力の及ばないものを相手にしていることによる特徴

- ・ 時間のバランスは都市よりも「自然」を相手にするだけ崩れは防止されている食事の時間も新聞を読む時間もとれている
- ・ 同じ自営業でも「商工サービス・自由業」と問題の性格が違っていく

# 都市におけるWLBが進むことによる 農業者の生活の変化期待

WLBが日本人の生活様式に定着する時

## ★都市生活者（消費者）と生産者の深い理解と連携

- 農業の多面的多機能の人間発達過程への農村の活用＝  
児童期の家族ステージにおける都市－農村・自然体験
- 農業の多面的多機能の活用した起業⇒新しい仕事の創出  
（収入の安定と年齢相応の仕事・生活様式）  
⇒農家の副業化（収入安定）⇒日本の農業の衰退の防止  
と豊かな自然環境の維持